

虚構世界をリアルに描いた

石原豪人展

～around the 1970s 妄想画、大集合～



図1 「幽霊」石原豪人／画『世界妖怪図鑑』立風書房1973年

1970年前後、少年雑誌の大幅解頁に、怪人、怪獣、怪奇現象など、あらゆる「怪」を描いて読者のドキモを抜いた石原豪人。たくましい妄想力と緻密な描写力で、現実にはありえない虚構の世界をリアルに表現した豪人作品の数々をご覧ください。

併せて、同時代に活躍したイラストレーターたちの作品も紹介。彼らは「宇宙」や「ロボット」など未来志向の作品に取り組みましたが、同時に「地球最後の日」「死後の世界」など破滅的な世界も盛んに描きました。そんな光と影を色濃くまとっていた時代・around the 1970sについても探っていきます。



図2・石原豪人(いしはらこうじん)
1923(大正12)～1998(平成10)
年、本名・石原徹 島根県出身
1954年から大衆小説雑誌に挿絵を描き始める。様々なジャンルに描いたが1970年前後の少年雑誌に描いた怪奇現象や怪人のイラストが最も印象深く記憶されている。



地球滅亡の予感

図3「暗黒星の大引力」石原豪人／画『学習コミックス〈科学シリーズ〉⑥地球の最後X年』小学館 1975年



少年愛雑誌でも活躍

図5「松虫」石原豪人／画 神谷敬里（栗本薫）／作『ジュネ』サン出版 1979年8月 原画

第一部 虚構世界をリアルに描いた 石原豪人



林月光の名でも活躍

図4『世紀末倶楽部』裏表紙 コアマガジン 1996年6月 石原豪人／画 原画
1975年頃からはポルノ系雑誌に林月光の名で挿絵を描き、その方面でも名を馳せた。



晩年に新境地を開拓

図6「人面犬生態図解」石原豪人／画『GORO』小学館 発行年月不明 原画

力、毒、色気を備えているのが豪人の特徴であるが、平成に入った頃から、そこに**笑いの要素**が加わって、さらに魅力的な世界を展開した。



図7「海洋大怪奇、海小人」石原豪人／画『少年マガジン』1968年8月11日号



図8『実証死後界』石原豪人／画
1986年 原画



図9「ナスカの地上
絵は日本人が描い
た?」石原豪人／画
『ボーダー』1993年

「石原豪人」
河出書房新社より刊行
力・毒・色気あふれる
豪人画業の全貌
2090 円（税込）
図 10



第二部

Around the 1970 s

妄想画の画家たち

図 11 「イルカがせめてきたぞっ」小松崎茂／画『なぜなに学習図鑑 9 なぜなにからだのふしぎ』小学館 1971 年
小松崎茂インターネットミュージアム提供／画像
「イルカがせめてきたぞっ」は約 10 年前からインターネット上で話題にされてきたが、本年 2026 年末、同タイトルの**実写映画**が公開予定されている。(河原崎実監督)



図 12 「実在する四次元の森」石原豪人／画『ドラゴンブックス 7 四次元ミステリー』講談社 1975 年



図 13 「地底のアトランティス大神殿」梶田達二／画『少年マガジン』講談社 1969 年 1 月 12 日号



「奇想画報 around1970」
河出書房新社より刊行
1970 前後の狂気と笑いに満ちた
イラストレーションの数々
2530 円（税込）
図 14



図15 「ひきがえるの雨」山本耀也／画
『少年マガジン』講談社
1971年4月28日号
とつぜん空から大量のひきがえるが降ってきた！
この頃の日本は、大気汚染、水質汚染が深刻化し、大きな社会問題になっていたが、それは第二次世界大戦後の工業復興がもたらした副産物でもあった。
発展をめざして、より速くより遠くへと時代は加速していたが、その裏で、公害に端を発する環境崩壊の予兆が、人々を脅かしてもいたのであった。



図16 「たかいぞ！ひろいぞ！さかなのアパート」
渡辺正美／画『なぜなに学習図鑑 23 魚と貝のふしぎ』小学館

会期中、展示替えをします。ここに挙げた画像は前期展示 or 後期展示のみの可能性があります。



図17 「みらいの月のき地」岡崎南雄／画
『なぜなに学習図鑑 4 月と宇宙のふしぎ』

around the 1970s は、どんな時代？ (1970 年前後)

図 18 出展不明 仮「宇宙へ」石原豪人／画

1969 年 7 月 21 日、日本時間の午前 5 時 17 分、アメリカ合衆国の宇宙船・アポロ 11 号の月着陸船は月面に脚をおろし、地球人は初めて他の天体に到達した。
画期的なニュースに世界中の人々は興奮し、**新時代の到来を予感**した。



図 19 「超高速のあけぼの」梶田達二／画

『少年マガジン』講談社 1970 年 2 月 1 日号 原画
東京オリンピック開催をめざして開通した新幹線は世界一速いと評判に。**戦後の混乱から奇跡的な速さで立ち直り、経済大国にのしあがった日本**であるが、1973 年のオイルショックから、経済成長は鈍化した。

◆会期 2026 年 10 月 3 日（土）～12 月 20 日（日）

◆所在地 〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-3

◆TEL 03-3812-0012

◆ホームページ

<https://www.yayoi-yumeji-museum.jp>

◆開館時間＝午前 10 時～午後 5 時（入館 4 時半まで）

◆休館日＝月曜日（ただし 10 月 12 日、11 月 23 日（月・祝）は開館、

翌 10 月 13 日、11 月 24 日（火）は休館。

◆入館料＝一般 1200 円/大・高生 1000 円/中・小生 500 円

※竹久夢二美術館と二階併せてご覧いただけます。

◆東京メトロ千代田線「根津駅」or 南北線「東大前」共に 1 番出口より徒歩 7 分/JR「上野駅」公園口・しのばず口より徒歩 20 分（東京大学 弥生門斜め前）

※駐車場はございませんので、お車でのお越しはご遠慮ください。

◆展示にあわせて河出書房新社より、「石原豪人」増補改訂版刊行。

河出書房新社より「奇想画報 around 1970」刊行。

隣接港や期間限定メニュー

「超能力プレート」 図 20

怪物カードのおまけ付 600 円



1970 年代、オカルトブームが起き、心霊現象、UFO、終末論、超能力、超常現象、都市伝説などが話題となりました。超能力で曲げたフォーク（？）で、ノンアルコールビールのひとときを。トルティーヤチップス&ミートディップのメキシコ風おつまみ、ピクルス、蛸の怪獣に見立てた蛸ウインナーが、冷たい飲み物とよく合います。

Fax 0 3 - 3 8 1 2 - 0 6 9 9

メール fishteel@yahoo.co.jp

弥生美術館 中村行

虚構世界をリアルに描いた

石原豪人展

～around the 1970s 妄想画、大集合～

画像貸出申込書

画像送付日 月 日 必着

掲載誌／番組名
発売／放送予定日
所属・ご担当者名
ご住所
電話
メールアドレス

ご希望の画像にチェックしてください。

図 1 幽霊		図 11 イルカがせめてきたぞっ	
図 2 豪人顔写真		図 12 実在する四次元の森	
図 3 暗黒星の大引力		図 13 地底のアトランティス大神殿	
図 4 『世紀末倶楽部』裏表紙		図 14 「奇想画報」書影	
図 5 松虫		図 15 ひきがえるの雨	
図 6 人面犬生態図解		図 16 たかいぞ！ひろいぞ！さかなの アパート	
図 7 海洋大怪奇、海小人		図 17 みらいの月のき地	
図 8 実証死後界		図 18 (仮) 宇宙へ	
図 9 ナスカの地上絵は日本人が描いた？		図 19 超高速のあけぼの	
図 10 「石原豪人」書影		図 20 超能力プレート	

通信覧

(読者プレゼントご希望枚数等)

画像の貸出について

同封のプレリリースでご紹介している図 13 点について、データを用意しております。ご希望の場合は、この申し込み書に必要事項をご記入の上、fax03-3812-0012 か、fishteel@yahoo.co.jp までお申し込みください。尾写真（外観）等を必要とされる方は通信覧にお書きください。

読者プレゼント用招待券のご提供について

読者プレゼント用にご招待券を 5 組 10 名様分までご用意いたします。この用紙にてお申込みください。

掲載誌ご送付のお願い

本展に関する記事をご掲載いただいた際には、お手数ですが掲載誌（紙）をお送りくださいますようお願い申し上げます。〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-3 鹿野出版美術財団 弥生美術館
中村圭子宛 電話 03-3812-0012